

本市の文化政策の方向性と取組について

目次

1	本市の文化政策の方向性	P2
2	第2期京都文化芸術都市創生計画に掲げる132項目の進捗状況	P3
3	令和4年度の主な文化関連事業について	P4
4	本市の文化政策を取り巻く社会経済情勢	P11
5	令和5年度の主な文化関連事業について	P15
6	本日特に御意見をいただきたいこと	P24

本市の文化政策の方向性

京都市の文化政策

京都文化芸術都市創生計画（2017～2027）

方向性1 暮らしの文化や芸術に対する豊かな感受性をもった人々を育む

方向性2 多様な文化が根付く暮らしの中から、最高水準の文化芸術活動を花開かせる

方向性3 京都の文化芸術資源を活用し、文化を基軸にあらゆる政策分野との融合により、新たな価値を創造する

方向性4 様々な文化交流を推進し、京都の魅力を発信する

コロナ禍・京都市の財政難への対応 【行財政改革計画の策定（令和3年8月）】

文化庁の京都移転（令和5年3月）

京都芸大の京都駅東部への移転
（令和5年10月）

大阪・関西万博の開催（令和7年）

本市の取組

- 1 文化芸術の担い手が自立的に活動できる環境の整備
- 2 アートの発信拠点としてのブランディング
- 3 更なる文化芸術と産業・観光等との融合
- 4 国内外から投資・支援を呼び込む仕組みの構築

第2期京都文化芸術都市創生計画に掲げる132項目の進捗状況

(令和4年度末時点)

実施済又は実施中	131項目 (99%) 「一部を除き、実施済又は実施中」から進捗 ・ 93 : 京都に息づき世界的に評価の高まっている和の文化の振興とユネスコ無形文化遺産への登録に向けた支援 ・ 114 : 文化庁の全面的な移転に向けた取組の着実な推進
一部を除き、実施済又は実施中	1項目 (1%) ・ 104 : 京都における新たな世界遺産の登録
企画・構想設計段階	なし
着手前	なし

令和4年度の主な文化関連事業について

京都市文化芸術総合相談窓口（通称：KACCO）

資金調達や契約・著作権等の専門知識など、文化芸術活動に必要な支援策の情報発信、各種相談に総合的に対応する「京都市文化芸術総合相談窓口（通称：KACCO）」を京都芸術センター内に設置している。

活動内容

文化芸術活動全般に係るアドバイス、各種補助金の紹介に加え、契約書・著作権等の法律相談、メンタルケア、税務・確定申告の相談に至るまで、専門家・関係機関と連携しながら幅広く対応している。

■ 主な情報発信及び相談対応内容

- ・活動再開に向けた支援情報（活動再開に関するアドバイス、講座・ワークショップに関する情報など）
- ・資金に関すること（国や自治体の支援制度、クラウドファンディングによる資金調達など）
- ・専門知識に関すること（オンライン配信に係る技術相談、契約書・著作権等の法律相談など）

■ 対象者

京都市内在住又は市内に活動拠点のある文化芸術関係者

（例：アーティスト、実演家、俳優、制作者、デザイナー、技術スタッフ、
アートマネージャー、スペース運営者 等）

（参考）相談件数

令和2年度：569件（令和2年7月設置～）／令和3年度：1,613件／令和4年度：676件

※窓口での通常相談のほか、相談会等イベントでの相談件数を含む。



京都市文化芸術総合相談窓口
THE KYOTO-CITY ARTS AND CULTURE COUNSELING OFFICE

京都アート・エコシステム推進事業

令和3年8月に策定した行財政改革計画に掲げた都市の成長戦略「文化と経済の好循環を創出する都市」において、「京都アート・エコシステム実現プロジェクト」をリーディング・チャレンジに位置付けている。企業をはじめとする多様な主体が文化に投資する潮流を生み出し、国内外からの投資、支援を呼び込む仕組みを構築し、アーティストが市内で定住、創作、発表、販売できる環境を整備、企業など多様な主体と交流する機会を創出する。

令和4年度は、文化庁移転やウイズコロナ・ポストコロナを見据え、危機的な財政状況の中でも、民間資金の獲得や国費の活用等により、文化と経済の融合による新たな価値創造の具体化を図る取組を推進。

Arts Aid KYOTO

京都市 連携・協働型文化芸術支援制度

京都の文化芸術を担うアーティスト等の活動を個人・企業の寄付等を通じて社会全体で支え、持続可能な文化芸術を振興。

令和4年度に約2億2千万円の寄付を獲得、32件の事業を支援。



文化と経済の融合 (アート×ビジネス) 推進事業

京都の多様な文化芸術の蓄積や創造力と、産業政策のスタートアップ支援等を融合した新たな取組として、京都芸術センターの施設の一部を企業・起業家向けオフィスとして貸し出す。

令和4年度に入居企業を募集し、企業7社を選定。

アート市場活性化事業

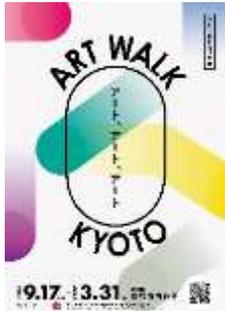
アート作品を市民の身近なものにするためのオンライン販売サイト「HAPS KYOTO」を構築し、令和4年度に17名の芸術家の作品90点を掲載。また、作品や市内の宿泊施設やカフェ等で作品の展示・販売を行う「ARK(Art Rhizome KYOTO)」を開始し、市内宿泊施設等11箇所で開催・販売を行うなど、若手芸術家等の作品とアート市場をつなぐ取組を進めた。

アートの社会的・経済的な価値を高め、

アーティストの国内外での評価も高めることで、その活動基盤の充実につながり、創作活動がさらに活発になるというアートを取り巻く体系（エコシステム）の好循環を形成する

文化庁移転記念事業をめぐる「ART WALK KYOTO」

文化庁移転の機運を高めるとともに、文化芸術都市・京都の活力の向上を図るため、「文化庁移転記念事業」（本市や民間の事業が参画）の多彩な催しやカルチャースポット等を巡る「おすすめコース」を紹介し、多くの方々に京都の「アート」に触れていただくための、まち歩き事業「ART WALK KYOTO」を実施。



◀ 公式サイト、リーフレット

「ART WALK KYOTO」
公式サイトや、リーフレット等
おすすめコース等を広く紹介。



◀ デジタルスタンプラリー

JR西日本のアプリ「WESTER」を活用し、
デジタルスタンプラリーを実施。

主な連携事業



1 ウォーホル・ウォーキング (R4.9.17~R5.2.12)

京都市京セラ美術館「アンディ・ウォーホル・キョウト」展との連動企画。ウォーホルが京都を訪れた際の足跡を辿りながら、京都の街を歩いて楽しむ体験型イベント。

「アンディ・ウォーホル・キョウト」展には約24万人が来場。

2 NAKED GARDEN ONE KYOTO (R4.9.15~R4.12.25)

二条城や寺院神社などの歴史的建造物を舞台に、リアルとメタバースのバーチャル世界がクロスオーバーする、次世代型街アートプロジェクト。全イベントで約30万人を動員。

3 京都モダン建築祭 (R4.11.11~R4.11.13)

京都に現存する魅力的なモダン建築を各所で一斉に公開する建築フェスティバル。令和4年度は、36件の建築が参加し、3日間で延べ約3万人が来場。



伝統芸能文化創生プロジェクト

平成23年度に本市が策定した「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）基本構想」に掲げるセンターに備えるべき機能の実現を目指すプロジェクトとして、平成29年度から実施。伝統芸能文化に関する保存・継承・普及等の総合的な観点から、伝統芸能文化を取り巻く課題の改善に取り組む。本市の伝統芸能文化の活性化を図るとともに、文化庁とも連携し、全国の関係機関とのネットワーク構築を推進することで、日本の伝統芸能文化の振興、京都の伝統芸能文化の創生につなげる。

令和4年度は、286件の相談に対応したほか、伝統芸能文化に用いられる楽器・用具用品やそれに係る伝統工芸技術の復元（新素材・新技術などの活用を含む）に向けた取組を公募し、2件を採択。

6つの機能の更なる強化を目指す

- 1 伝統芸能に関する学術研究
- 2 伝統芸能に関する創造・普及
- 3 楽器・用具用品に関する相談・支援
- 4 ネットワーク・コーディネート
- 5 全国発信・地域間交流
- 6 海外発信・国際交流

平成19年度～平成25年度の「京都創生座」や平成21年度～平成28年度の「五感で感じる和の文化事業」の、流派を越えて伝統芸能の持つ力を引き出す創作・公演や、国内外への発信・交流、市民への普及等の成果を引き継ぎ、平成29年度から「伝統芸能文化創生プロジェクト」として、上記6つの機能の更なる強化のための活動を行っている。

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス（TARO）



平成29年

「伝統芸能文化創生プロジェクト」を推進する主体となる
「伝統芸能アーカイブ & リサーチオフィス(TARO)」
を設置

TAROとは・・・

「伝統芸能文化センター」に必要とされる機能の確保・強化に取り組む事務局。伝統芸能の継承や保存、用具・用品とその材料の確保、普及・創造・発信活動など、伝統芸能文化の総合的な活性化の観点から、ネットワークの構築や基礎調査等を進める。

子どもを対象とした文化芸術に関する主な施策

文化財分野	生活文化分野	伝統文化分野	伝統産業分野	舞台芸術分野
<ul style="list-style-type: none"> ●『葵祭見学』(幼) (R4は葵祭中止) ●『時代祭見学』(小) ●『歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定』(小) ●『中高生による「京都・観光文化検定試験3級」チャレンジ事業』(中、高) 	<ul style="list-style-type: none"> ●『伝統文化体験事業(茶道・華道)の充実』小学校での茶道、中学校での華道体験(小、中) ●『「茶道」を中心としたおもてなし事業』(高) ●『学校給食における「和食」の充実に向けた取組の推進と情報発信』和食の献立を充実(小、中) 	<ul style="list-style-type: none"> ●『ようこそ和の空間』能、狂言、邦舞、邦楽の伝統芸能公演鑑賞(中) ●『市立高校生の伝統文化体験事業「能楽鑑賞会」』(高) ●『市立高校生の伝統文化体験事業「坐禅体験会」』 ●『社会に開かれた教育活動推進事業』家庭や地域と連携した伝統文化体験(小、中) 	<ul style="list-style-type: none"> ●『京の「匠」ふれあい事業』西陣織、京鹿の子紋、京友禅・京小紋、京くみひもなどの伝統産業製作体験(小、中) ●『夏のこども体験教室』京くみひも作り体験・平安貴族体験など(小) 	<ul style="list-style-type: none"> ●『小学生演劇鑑賞教室』RT京都で劇団四季の演劇鑑賞(小) ●『小学生のための音楽鑑賞教室』京都CHで京響の演奏鑑賞(小) ●『文化芸術による子供の育成事業(文化庁事業)』実演芸術の巡回公演、学校での文化芸術鑑賞・体験(小、中、高)
	<ul style="list-style-type: none"> ●「放課後も！ようこそアーティスト」 放課後等に行うワークショップ・連続講座(小) 			
	<ul style="list-style-type: none"> ●『ようこそアーティスト』能楽、日本舞踊、邦楽等の伝統芸能をはじめ、茶道、華道、書道や演劇、ダンスなどの一流のアーティストを学校等に講師として派遣し、実技指導やワークショップを行う(幼、保、小、中) 			
	<ul style="list-style-type: none"> ●『歴史的建物での華道・茶道体験』 休日における歴史的建物等での京の伝統文化体験(小、中) 	<ul style="list-style-type: none"> ●「親子でも！ようこそ和の空間」 休日に一般募集で実施(小・中) 		
		<ul style="list-style-type: none"> ●『京の技専門家派遣事業』和装の着装指導や、邦舞、和楽器、伝統産業の専門家の講師派遣と体験教室(小、中) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ●『京の生活文化普及啓発事業』等 京料理や花街文化(伝統工芸含む)、地蔵盆等の京都文化遺産の親子向け体験(小、中) 			

文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業

共生社会の実現に向けた基盤づくりとして、福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談への対応、コーディネーターの育成、モデル事業の実施など、文化芸術により社会的課題・困難の緩和につなげるための取組を実施

相談事業（Social Work/Art Conference(SW/AC)）

芸術家等が社会課題へアプローチする際や、福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談に対応する窓口を令和2年度に設置し、各種の相談に対応中。

普及・啓発事業

社会課題にアプローチするアートプログラムの事例や効果伝えるための講座を実施。

モデル事業

前年度に続き崇仁地域を中心にモデル事業を展開。
令和4年度は特定のアーティストではなく、崇仁・東九条地域を中心として、地域住民や、継続的に地域で文化芸術活動を行う人々を対象に、対象者と相談を行いながら取組を進めた。

コーディネーター育成

文化芸術と社会課題をつなぐコーディネーター育成に向け、令和2年度からスタッフを1名採用し相談事業等に対応。令和4年度で育成期間を終え、令和5年度以降もアシスタントコーディネーターとして引き続き従事している。

SW/AC 相談と連携のイメージ 2021



京都駅周辺エリア（西部・東部・東南部）の活性化

京都駅周辺エリアにおいて、京都芸大の移転を契機とした文化芸術を基軸としたまちづくりの一環として市有地の活用に加え、学生、アーティストと地域の方、事業者等との交流を促進し、相互理解を深める事業を推進。

広報誌「5TO9+」の発行

アーティストと地域・事業者との交流や相互理解促進のため、京都芸大移転地の周辺エリアで活躍するアーティストに係る特集記事、地域・イベント情報を掲載。

地域に身近な場所での芸術活動・交流の場づくり

文化芸術・伝統産業の多様な担い手たちが地域の中で活躍できる場づくりの拡大のため、担い手と地域の方との交流の機会の創出や支援として、京都芸大生等による演奏会や作品展を実施。

新たな価値を生み出す創造・発信拠点の誘致

東南部エリアにおいてチームラボミュージアム京都（仮称）や新たな体験型アートセンター「Superblue Kyoto」を含む複合文化施設が開業予定。

交流共創拠点の創出

京都芸大新キャンパス隣接地において「SDGsの実現と文化芸術都市・京都の未来を共に創造・発信する交流共創拠点」を整備・運営する事業者として「共創HUB京都コンソーシアム（大阪ガス都市開発×京都信用金庫×龍谷大学）」を令和5年度に選定。令和9年度中の開業に向けて契約締結予定。

京都駅東部・東南部エリアのカルチャーを発信。

5 TO 9
East and South-east Parts of the Kyoto Station Area
CULTURE JOURNAL



本市の文化芸術を取り巻く社会経済情勢

行財政改革計画の概要と京都市の決算状況

京都市では、「はばたけ未来へ！ 京(みやこ)プラン2025（京都市基本計画）」（令和3年3月策定）の「行政経営の大綱」に掲げる財政構造の抜本的な改革を着実に実行し、公債償還基金の枯渇を回避するとともに、基金の計画外の取崩しからの脱却の道筋を示すため、「行財政改革計画」を令和3年8月に策定・実施。

行財政改革計画

令和3年8月～令和7年度

行財政改革

- 1 事業見直しや受益者負担の適正化等
- 2 投資的経費のマネジメント
- 3 公共施設のマネジメントと資産の戦略的な活用
- 4 全会計連結による改革の視点
- 5 組織・人員体制の適正化、人件費の削減

都市の成長戦略

「5つの都市デザイン」の実現を牽引する7つの「リーディングチャレンジ」を推進する。

歳入・歳出の両面から改革

令和4年度決算で21年振りに「特別の財源対策」から脱却

77億円の黒字となり赤字を解消

財政状況は大きく改善！しかし、今後も油断できない状況

この間、取り崩してきた公債償還基金に、今後505億円の返済が必要

<令和4年度決算収支の全体像>

	4年度	3年度	増減 (4年度-3年度)
歳入総額 (A)	9,621 億円	1兆519 億円	△ 898 億円
歳出総額 (B)	9,464 億円	1兆589 億円	△ 1,125 億円
翌年度への繰越財源 (C)	79 億円	15 億円	64 億円
収支 (A-B-C)	77 億円	△ 85 億円	162 億円

【参考】財政健全化法上の実質収支（特別の財源対策後の収支） 77 億円 4 億円

※1：中小企業融資制度預託金（元利収入）の減△697億円など

※2：【R4.2月補正予算】道路、学校修繕など、市民生活の安心安全対策のための繰越財源(土地売却収入)の増 など

- ・3年度決算比 162億円 の収支改善
- ・財政の健全化を示す指標は、大きく改善
 - 実質の市債残高(一般会計)：8,252億円 (R③：8,420億円)
※H②0ピーク時から△16.1% (△1,580億円)
 - 将来負担比率：150%程度(9月確定) (R③：170.4%、R②：193.4%)

文化庁の京都移転

組織改革・機能強化を図り、令和5年3月27日に文化庁が京都での業務を開始

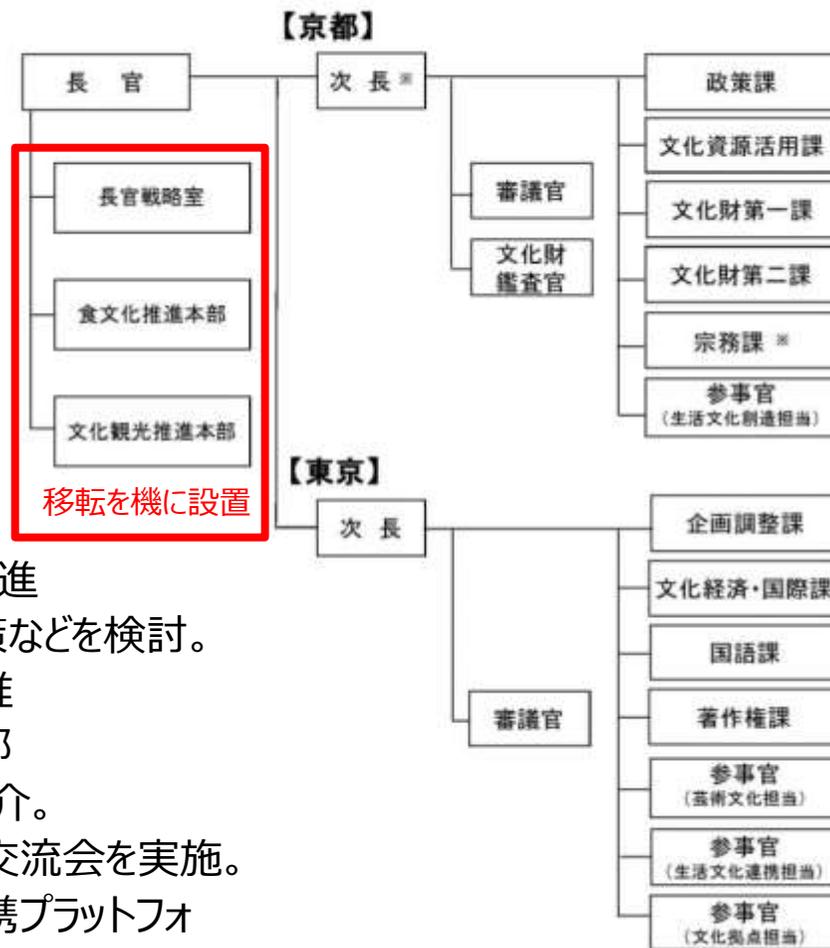
令和5年 3月27日から京都での業務を開始し、
令和5年 5月15日に大半の職員の移転が完了。

京都移転を契機に、長官の直轄組織である「長官戦略室」、
「食文化推進本部（事務局 参事官（生活文化創造担当）」、
「文化観光推進本部（事務局 文化資源活用課）」が京都に
設置された。

<京都市の取組>

- ・ 京都市では、令和5年度に全庁横断的な「文化庁政策連携推進チーム」を設置し、文化庁と連携した事業実施や情報発信の方策などを検討。
- ・ 令和5年6月には、文化庁の「食文化推進本部」、「文化観光推進本部」の合同会議で京都市の取組の意見聴取が行われ、京都モダン建築祭、文化財のユニークベニュー活用等の先進事例を紹介。
- ・ 令和5年7月には、文化庁・京都府・京都市の若手職員による交流会を実施。
- ・ 同月、文化庁、関西広域連合、関西経済連合会、文化庁連携プラットフォームにおいて、共同宣言（「文化の力で関西・日本を元気に」）を実施。

文化庁組織図
(令和5年3月27日現在)



※業務に一定の区切りがつくまでの間、東京において勤務する予定

京都芸大の京都駅東部への移転

世界に冠たる芸術大学として一層飛躍するため、 令和5年10月に京都駅東部エリアへ移転

京都市立芸術大学の移転を契機に以下の取組を推進

○学外連携・政策連携スペースの設置と活用

＜学外連携を中心としたスペース＞約800㎡

文化と経済の融合など、企業・事業者等との創造的な交流・連携等を
生み出すことを目的に入居事業者を公募し、寺田倉庫株式会社を選定。

＜政策連携を中心としたスペース＞約500㎡

世界人権問題研究センターが入居し、総合地球環境学研究所等との分野を超えた連携を実施すること
により、SDGs、人権、地球環境など社会全体の課題解決や京都市の政策にも資する取組を推進。

○「アート×SDGs共創」推進チームの設置

京都市、京都芸大、人権・環境・文化芸術の関係団体・機関等が分野横断的に連携し、「学外連携・
政策連携スペース」の活用のほか、広く文化芸術の力を活かした社会連携・社会貢献の方策等について検討・
実践する「アート×SDGs共創」推進チームを設置。



「テラスのような大学」という京都芸大移転コンセプトの下、様々な分野との交流・連携等により、
文化芸術を核としたまちづくり、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創出

を目指す。

大阪・関西万博の開催

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、 令和7年4月～10月に「大阪・関西万博」開催予定

<サブテーマ>

Saving Lives (いのちを救う) / Empowering Lives (いのちに力を与える) / Connecting Lives (いのちをつなぐ)

<コンセプト>

-People's Living Lab- 未来社会の実験場

- ①展示をみるだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」(co-create)。
- ②万博開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ。
- ③人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場に。

開催期間 令和7年4月13日(日) - 10月13日(月) 184日間

開催場所 大阪 夢洲(ゆめしま)

<大阪・関西万博きょうと推進委員会>

大阪・関西万博を契機に、京都産業の強みや府内各地の文化や観光資源などを国内外へアピールし、交流促進によって京都の発展に着実につなげるため、行政や経済界、有識者等のオール京都体制で取組を推進するため令和5年度に設置。

座長：山極壽一 総合地球環境学研究所所長



令和5年度の主な文化関連事業について

取組 1 文化芸術の担い手が自立的に活動できる環境の整備

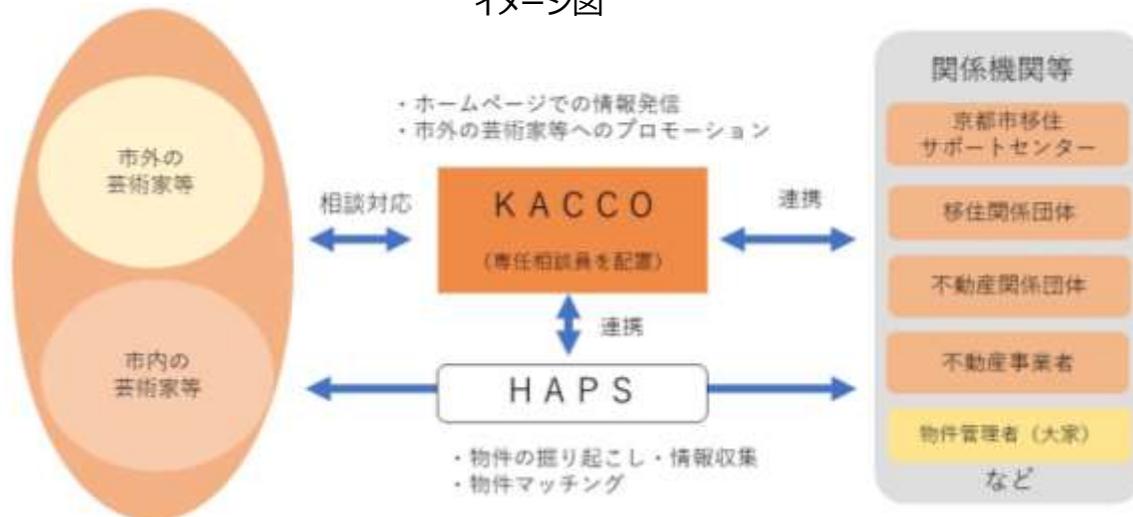
芸術家等の移住・居住の推進

○芸術家の移住・居住等推進モデル事業

京都芸術センター内に設置している「京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）」に、専任相談員を新たに配置し、令和5年6月から芸術家等の移住・居住に係る相談事業等を開始

- ・ 京都市内への移住・居住を希望する芸術家等からの相談対応
- ・ 不動産事業者等との連携による物件の掘り起こし・情報収集
- ・ ホームページでの情報発信（令和6年3月末までに開設予定）
- ・ 京都市外の芸術家等へのプロモーション など

イメージ図



そのほか、旧大学留学生寮を活用し、芸術家等が居住し交流するための施設として整備・運営を行うため、11月末に事業者を選定するプロポーザルを実施（事業者選定中）。

また、アート作品の制作・保管ができる場所を整備し、芸術家等の移住・居住の推進に繋げる。

子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出

「文化芸術授業(ようこそアーティスト)」と「伝統公演授業(ようこそ和の空間)」を一体的な取組として実施し、子どもたちが伝統的な文化芸術に触れる機会を創出する。また、文化庁「子供たちの伝統文化の体験事業」を活用することで、放課後における子どもたちがほんものの文化芸術に触れる機会を充実する。

文化芸術授業（ようこそアーティスト）

伝統芸能や茶道、華道、演劇、ダンスなど幅広い分野にわたり京都で活動する芸術家を市内の小・中・総合支援学校、幼稚園、保育所（園）に派遣し、ワークショップ等を実施。

伝統公演授業（ようこそ和の空間）

中学生を対象に、能楽堂等本格的な文化芸術の場で「能」「狂言」「邦楽と日本舞踊」の伝統芸能の魅力に触れる伝統芸能公演を鑑賞。

文化庁委託事業

子供たちの伝統文化の体験事業

京の伝統文化体験事業

- ・「放課後も！ようこそアーティスト」「文化芸術授業（ようこそアーティスト）」を、親子等を対象に放課後や休日等授業時間外で実施。
- ・「親子でも！ようこそ和の空間」「伝統公演授業（ようこそ和の空間）」を、親子等を対象に休日等を活用して実施。

KYOTO ART BOX FOR KIDS

親子や子どもたちが自身で主体的に文化芸術にアプローチできる環境を構築するための「子ども向け文化芸術専用サイト『KYOTO ART BOX FOR KIDS』」を令和5年11月から順次開設。

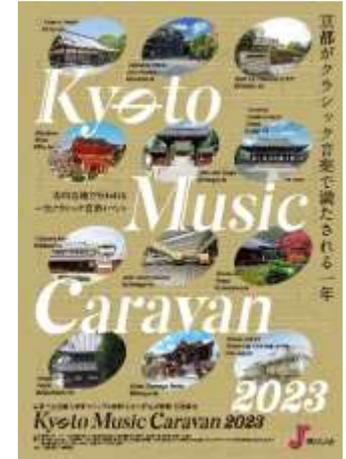
子どもが参加できるイベントや、子どものために企画されたプログラムの情報を掲載。



Kyoto Music Caravan 2023

京都芸大と文化庁の移転を記念して、市内11区の名所や観光地等で、京都芸大在學生や卒業生等による無料コンサートを実施。

さらに、京都芸大新キャンパスでは、京都市でクラシック音楽を学ぶ子どもや学生たちによるスペシャルコンサートを開催。



京都ユニークベニューガイドの発行

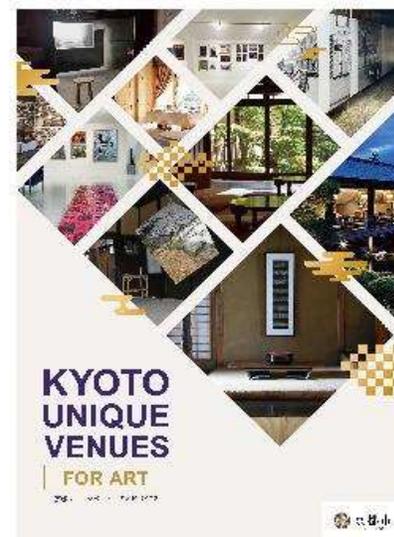
京都ならではの特別な会場を活用したアートイベント等の開催を促進し、アート市場の活性化とともに新たな交流を創出するための冊子を令和5年10月に発行（以下を掲載）。

①ユニークベニュー会場

全26施設を「寺院・神社・史跡」、「町家等の伝統建築」、「商業施設」などのカテゴリーに分類して紹介（施設例：高台寺、元離宮二条城、THE TERMINAL KYOTO、長江家住宅など）

②アートイベントカレンダー

京都はもとより、日本、アジア、世界各地の主なアートイベントやアートフェアの開催スケジュールを示したカレンダー



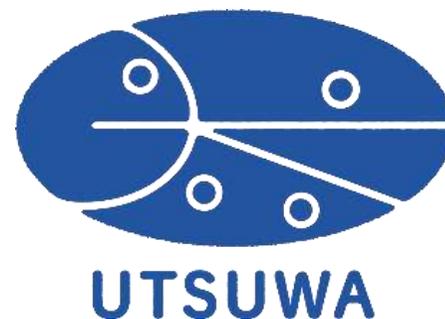
アーティストの制作現場をめぐるツアー

京都の強みである工芸の技術を活かして美術作品を創作している西條茜氏、田上真也氏、西村圭功氏、橋本満智子氏の制作現場などを巡る。作家の技術や作品の魅力発信、さらには国内外の芸術祭やアートフェア等への招聘などに繋げ、京都のアート市場活性化を目指すため、「Art Collaboration Kyoto (ACK)」に合わせ、ギャラリストやコレクター等の文化芸術関係者を案内する特別ツアーを実施。



アート×ビジネス共創拠点（愛称：器（うつわ））の設置

京都芸術センターを利用しているアーティストや入居企業のみにとどまらず、芸術関係者と企業等を対象に、互いの創造的活動における相乗効果や様々な連携を通じ、文化芸術の本質的価値に加え、社会的・経済的価値を高めることを目指し、交流やマッチング支援、セミナーやワークショップを開催。



カルチャープレナー（文化起業家）の創造活動促進

新しい文化を創造することで事業価値を生み出していく人が、「カルチャープレナー（文化起業家）」として注目されつつあることを踏まえ、文化芸術に投資する新しい潮流を京都から生み出すことを目指して以下の取組を実施。

①「CULTURE-PRENEURS AWARD 2023」の実施

Forbes JAPANと連携し、全国のカルチャープレナーを対象としたアワードを開催。
45歳以下の若いカルチャープレナーたち30組のほか、京都市特別賞3組などを選出。

②文化と経済の好循環創出に向けたラウンドテーブルの実施

京都市の都市の成長戦略「文化と経済の好循環を創出する都市」の実現に向けた道筋等を専門家等を交えて議論するラウンドテーブルを年度内に4回実施。



「源氏物語」と平安京の魅力発信

令和6年にNHK大河ドラマ「光る君へ」（紫式部が主人公）が放送されることを受けて、地上に痕跡をほとんど残さない平安京跡などの埋蔵文化財の魅力を一層発信するとともに、あらゆる世代が改めて京都に魅力を感じる機会を創出する。

本事業では、平成19年度に設置した「源氏物語ゆかりの地」に係る説明板の充実（10基新設等）をはじめ、源氏物語に係るデジタルスタンプラリー 4コースの新設や関連施設における平安京跡等の発掘成果の展示などを順次実施している。

<関連施設における展示（予定）>

- ・考古資料館：「紫式部の平安京－地中からのものがたり－」（令和6年2月～6月頃予定）
- ・京北文化遺産センター：「源氏物語 祈の抄－深山に残された平安の仏宝－」（令和6年3月～12月頃予定）

※ 歴史資料館においても令和6年度に関連展示を予定している。



京都モダン建築祭

京都に現存する魅力的な“モダン建築”を、市内各所で一斉に公開する建築フェスティバルを令和4年度から開始。

令和5年度は、開催期間を11日間に拡大して79件の建築が参加し、京都市文化財マネージャー等によるガイドツアー等も開催。

収益の一部は、建築の保存に還元している。



取組 4 国内外から投資・支援を呼び込む仕組みの構築

Arts Aid KYOTO～京都市 連携・協働型文化芸術支援制度～

文化芸術関係者の意欲的な活動を個人・企業の寄付等により社会全体で支え、文化芸術の持続可能な振興を図るため、令和3年度に「Arts Aid KYOTO」制度を創設。

ふるさと納税制度をてこに寄付を呼び込み、これを民間の文化事業への補助に結びつけている。

- 文化芸術事業の支援に加え、令和4年度に新たに文化財保護事業を対象に追加。
- 政令市で初となる文化芸術事業への寄付ポータルサイト「Kyoto Art Donation」を新たに令和5年5月に開設。11月からは毎月定額のクレジット決済による「継続寄付」も受付開始。



寄付獲得総額：約4億3,000万円

支援総数（予定を含む）：約130件
(R3.10～R5.11)

【美術、舞台芸術、音楽など幅広いジャンルの事業を支援】

- ・写真集の制作
- ・演劇ワークショップ
- ・作品展示
- ・ダンス公演
- ・狂言会
- ・プロジェクトのリサーチ、発表
- ・市指定文化財の修理

京都市京セラ美術館 新進作家支援・育成事業等のためのチャリティ・オークション

新進作家の支援・育成事業を維持・継続し、更なる支援に繋げるため、村上隆、蜷川実花、名和晃平等、24名の作家やギャラリーの皆様の協力を得て、チャリティ・オークション及びガラ・ディナーを令和5年5月に開催。

※オークションの収益は、新進作家の支援・育成事業へ活用するほか、一部をウクライナ・キーウ支援のために寄付。

参加者数 170名

出品数 24点

落札価格 62,645千円

【参考：前年度実績】

参加者数160名／出品数21点／落札価格：32,780千円



撮影：三吉史高

撮影：三吉史高

海外からの寄付受け入れホームページ（英語）の運用

京都市情報館内に海外からの寄付受付ページ（寄付を呼び掛けるページ及び寄付者が決済情報等を入力するページ）を令和3年度に開設。加えて令和4年度には、京都市の取組を海外に発信するページ（英語）を新設。さらに、これらのページへの誘導のため、SNS（「Facebook」及び英語版のパブリッシングプラットフォーム「Medium」）を活用し、英語での京都の魅力や価値を発信している。



生活文化の振興

文化庁移転を機に、京都の文化を意識し、文化芸術都市に暮らすこと・訪れることの意義の再認識を目指し、「御池茶会」と題した市民茶会の開催及び、「生活文化に親しむ秋～五感を満たすきょうのくらし～」として、秋に京都市内で実施される生活文化のイベント情報をお届け。

①御池茶会

京都市への文化庁移転を契機に生活文化を振興する事業の一環として開催される初心者向けの学生によるお茶会を開催。

さらに、お茶会に参加いただく方に京都の伝統文化に親しんでいただくため、京都市役所内にてKYOTO Sustainable Networkによるいけばなの展示やトークイベント及び箏・小鼓などの演奏を実施。

②生活文化に親しむ秋 ～五感を満たすきょうのくらし～

生活文化に係る事業の情報を周知するため、冊子「生活文化に親しむ秋～五感を満たすきょうのくらし～」を発行するとともに、ホームページ、SNSでも情報発信。



本日特に御意見をいただきたいこと

1 文化庁・芸大移転後の文化芸術政策の在り方について
(生活文化、文化観光、京都ならではの文化芸術を活用した夜の価値創造、
芸大と社会との連携、大阪・関西万博、文化財)

2 芸術家等の移住・居住の推進について
(相談機能、施設、芸術家にとっての魅力)
